

立命館大学理工学部 正 員 春名 攻  
立命館大学大学院 学生員 寺田 英樹  
立命館大学大学院 学生員 ○松井 健司

## 1. はじめに

近年、我が国の著しい経済発展の結果としての経済的ゆとりと労働時間の短縮に伴った余暇時間の増加により、人々のスポーツ・健康に対する意識は確実に高まってきている。また、人々の価値観の多様化は、スポーツについても例外ではなく、それぞれが異なったニーズを持っている。すなわち、このような現代社会で健全に生活していくためには、人々の多種多様なニーズに対応するような施設や場所を整備する必要があると考える。

一方、このことを都市・地域計画的な観点から見れば、次のようなアーバンリゾート施設整備の問題として捉えられる。すなわち、現在、都市住民が魅力を感じる都市の社会環境としては、好ましい景観でアメニティ性に優れた環境空間の下で「職」・「住」・「学」・「遊」という主要な4つの都市機能がバランスよく整備されている環境であると言われており、その4機能の中でも、今や「遊」機能実現のためのアーバンリゾート施設の整備は大変重要な都市課題となっており、その中でも流行とは関係なく嗜好されているのがスポーツである。

本研究では、このような健康志向、多様化という社会潮流の中でアーバンリゾートの主要構成要素であるスポーツ施設の効果的整備方法の構築を最終目標とし、今回はその第一段階として、スポーツ施設利用に関する実態・意識構造の調査を行い、その調査結果の分析をすることにより、施設計画をよりよい方向へと展開させていくための複合スポーツ施設計画コンセプトの設計情報として取りまとめた。

## 2. 複合化の有用性と施設計画コンセプトの設計情報の作成方法

### (1) 複合化の有用性

近年、社会では前述したような背景のもとで体育館や運動広場、スパリゾートなど様々な健康・スポーツ施設が整備されてきている。しかし、このような施設は各目的別に作られていることが多く、利用者にとっては目的別にそれぞれ違う施設に行かなければならないというのが現状である。

そこで、これらの施設がまとまれば、目的別にその都度違う施設に行くという従来の不便性が解消できると考える。また、家族や友人で目的が違って同じ場所で目的別の行動をとることも可能になると考える。

次に、計画者サイドの地域施設の複合化の目的として次の3つがあげられる。

#### ①土地・空間の有効利用

地価水準の高い我が国においては土地の有効利用が複合化の極めて現実的な動機となる。また、複合化による空間の共同化は当該諸機能の利用率を高めることにつながる。

#### ②施設の管理・運営の効率化

複合化によって、管理・運営のための人員およびスペースを削減でき、ランニングコストの低減化をはかることができる。さらに、設備の集約化による消費エネルギーの低減、廃棄物処理の効率化なども可能となる。

#### ③多様な機能の集積効果

機能の異なる施設を複合化することによって様々な施設間の相乗効果を生み出すことができる。すなわち、利便性の向上、利用機会の拡大、多様なニーズに応える施設環境の高度化、賑わいや楽

しさなどの都市性の創出、利用者の文化的交流の促進、さらに地域社会における核の形成などが期待される。

## (2) コンセプト設計情報の作成方法

ここでは、前述したような複合化の有用性を受け、複合化スポーツ施設の施設計画をよりよい方向へと展開させていくコンセプトを設計するための設計情報の作成方法について述べることにする。

まず、あるプロジェクトにおいてそのコンセプト設計が行われる際には、そのプロジェクトを計画する側、つまり計画者サイドの意向というものがその中には当然のことながら含まれているものである。しかし、この計画者サイドの意向を取り入れたトップダウン的なプロジェクトのアプローチだけでは、地域施設を計画するという観点から見ると非常に危険で避けなければならないことである。そこで、このようなことを避けるためにもコンセプトの設計段階において積極的、先取的に利用者サイドの意見を取り入れていくことが必要であるという見地にたち、図-1に示すような施設計画コンセプト設計情報の作成方法の流れにそって概説すると、まず、計画者サイドの意向としては、導入機能、導入施設、計画規模、事業主体、事業形態などが設計情報としてまとめておくべきであると考えられる。次に、利用者サイドの意向としては、施設ができることによる地域環境の変化に対する意向、騒音や交通渋滞などの交通問題に関する意向、施設の利用できる時間や利用料金、アクセス性、規模、付帯施設の内容、駐車場の有無等があげられる。

しかし、利用者の意向は多種多様で複雑であるため、把握することは困難である。したがって、これらの意向を明確にするためにアンケート調査を実施し、その分析を行うこととした。

まず、一次分析（単純集計、クロス集計）において各調査データの集計を行い、データ全体の把握をする。そして次に高次分析（数量化Ⅱ類）を適用することによって、各要因が外的基準に及ぼす影響度が明確化でき、施設計画に影響を与える

と推測される主要な要因を抽出することが可能となる。分析の視点として、以下の3つに絞っている。

- ①住民ニーズと選択に対する目的の充足感
- ②目的施設の魅力化による施設集客性の向上
- ③複合的施設利用行動のメカニズムの解明

このような流れよりコンセプトを設計するための設計情報として取りまとめることができる考えた。

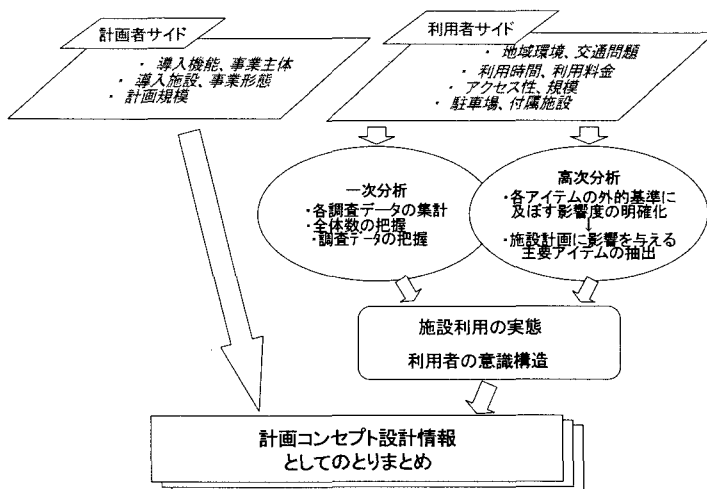


図-1 コンセプト設計情報の作成方法

## 3. アンケート調査方法について

施設計画のコンセプト設計をする際には、トップダウン的な計画者サイドの意見からだけではなく、利用者サイドの施設に対する意向・ニーズもこの段階において先取的に検討し、把握することは後続の各作業をスムーズに進めるためにも必要不可欠なことである。しかし、人間の主観は多種多様であるとともに、その意向・ニーズも変化しやすいという特徴を持っている。つまり、ある人にとって最適であるものでも他の人にとっては適当ではなく、ある時期最適だったものも他の時期には適当ではないという場合も考えられ得るのである。したがって、需要者となる利用者サイドの実態・意識を十分に把握しておくことが施設計画案策定の際の必要かつ重要な前提条件であると考ええる。

そこで、このような多種多様に化する人々のニーズを把握し、複合スポーツ施設の施設計画コンセプトを設計するためにも、スポーツ施設利用に関する人々の実態・意識調査、スポーツ施設に対するニーズの調査を行い、その結果を分析することが有効であると考えた。また、この調査を行うことによって、計画者側からのトップダウン的な計画ではなく、より利用者サイドの人々の意識を反映した高質で良好かつ魅力的な施設開発が可能となると考える。

以上のような認識のもと、図-2にしたがって、

- ①個人の属性
- ②スポーツ・健康に関する意識
- ③スポーツ活動の実態
- ④需要者（利用者）のニーズ

といった4つのポイントからアンケートを設計した。調査概要については表-1に示す通りである。

表-1 調査概要

|            |                                       |
|------------|---------------------------------------|
| ○調査主題      | スポーツ施設利用に関するアンケート調査                   |
| ○調査対象      | 関西在住の18歳以上の人                          |
| ○調査方法      | 郵送によるアンケートの配布および回収                    |
| ○調査期間      | [本調査]<br>平成9年12月～平成10年1月              |
| ○調査配布、回収状況 | [本調査]<br>配布:640部 回収:430部<br>回収率:67.2% |

設計するための設計情報を作成した。アンケート調査の分析結果の詳細については、講演時に示すこととする。

#### (1) スポーツ施設利用の実態

スポーツ施設利用の実態については、まず、スポーツを行う目的として「健康のため」、「趣味・楽しみのため」、「ストレス解消のため」があげられる。施設利用に関しては、多くの人が施設を利用しているが、その割合や施設利用費はそれほど高くない。次に、交通手段としては、多くの人が「自動車」を利用している。また、利用時間帯については、平日には利用者は少なく、休日に多くなっている。そして、スポーツをしていない理由としては「時間が無い」ことがあげられる。スポーツ活動の満足度については、施設利用の割合や施設利用費が高いほど満足度も高い。

これを属性別にみると女性・中高年の人は健康のためのスポーツへの関心が高く、男性・会社員は平日の施設利用が少なく、時間が無い人が多いといえる。また、会社員の満足度は低いことがわかった。

#### (2) 意識構造の検討

意識構造については、ほとんどの人が健康に関心があるが、その関心度が高いほど健康度は低く、逆に不安度が高くなる。そして、関心度が高い人は、今後、スポーツを行いたいと考えている。施設を利用する際に重要視する項目としては、「施設の内容・機能」、「料金」、「利便性」があげられる。また、人々の意識は日帰りでの利用の場合と滞在での利用の場合とで異なるものと考え、それ

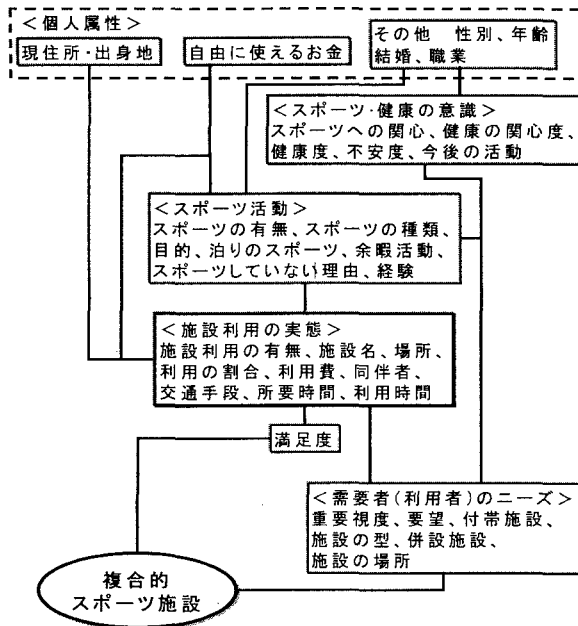


図-2 アイテム間の要因関連図

### 4. スポーツ施設利用に関する実態・意識構造に関する検討

調査結果の一次、高次分析を行い、スポーツ施設の利用の実態、意識構造について検討した。これにより、複合スポーツ施設計画のコンセプトを

それぞれについて述べることにした。

①日帰りでの利用の場合

高次分析結果より「利便性」、「建物の景観」、「属性」などが施設を選ぶ際に影響を与える要因であると考えられる。スポーツ施設の型としては「スポーツ公園型」、併設施設としては「温泉（スパ）」「スポーツクラブ」「公園（広場）」「アミューズメント施設」「商業施設」、場所としては「自宅の近く」「自然」「繁華街」が望まれている。

②滞在での利用の場合

高次分析結果より「付帯施設の充実」「駐車場の整備」「場所的要因」などが施設を選ぶ際に影響を与える要因であると考えられる。スポーツ施設の型としては「スポーツリゾート型」、併設施設としては「温泉（スパ）」「健康ランド」「アミューズメント施設」「商業施設」、場所としては「郊外」「自然」が望まれている。日帰りよりも滞在のときの方が、施設に対する重要視度が高いことから、より意識的な行動をとることが考えられる。

これを属性別にみると、女性の方が施設に対する重要視度が高く、また、日帰りでの利用と滞在での利用において意識の違いがはっきりしていることがわかった。

(3) コンセプトの設計

都市住民の施設利用に関わる意向・行動の構造的な分析における3つの視点から、コンセプトの設計情報として取りまとめ、表-2に示す。

最後に、取りまとめたコンセプトの設計情報から複合スポーツ施設計画のコンセプトを

**<コンセプト>**

自然を満喫し、快適環境の中で  
心身ともにリフレッシュできる生涯健康施設

とした。

5. おわりに

本研究では、アーバンリゾートの中でも流行とは関わりなく嗜好されているスポーツに着目し、

表-2 コンセプトの設計情報

|         |                                                                                            |
|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 利用者の意識  | 健康指向・レジャー志向                                                                                |
| 健康関心度高い | 健康度が低い、不安度が高い                                                                              |
| 健康のために  | スポーツ                                                                                       |
| 交通手段    | 自動車                                                                                        |
| 女性      | 健康意識・施設へのニーズが高い<br>日帰り・滞在での意識が異なる                                                          |
| 男性      | 平日の施設利用が少ない<br>駐車場の整備を重視                                                                   |
| 中高年     | 健康の意識が高い                                                                                   |
| 重要視する項目 | 施設の内容・機能、料金、利便性                                                                            |
| 満足度     | 施設利用の割合・利用費が影響                                                                             |
| 日帰り     | 利便性、建物の景観が影響<br>施設の型…スポーツ公園型<br>併設施設…温泉(スパ)、スポーツクラブ<br>公園、アミューズメント、商業施設<br>場所…自宅の近く、自然、繁華街 |
| 滞在      | 付帯施設の充実、駐車場の整備が影響<br>施設の型…スポーツリゾート型<br>併設施設…温泉(スパ)、健康ランド<br>アミューズメント、商業施設<br>場所…郊外、自然      |

- スポーツと健康の双方を結び付けた複合施設の整備の必要性

○属性別で意識の違いが見られることから、対象地域・対象者によって、コンセプトも異なる

○施設の内容・機能、料金、利便性に重点を置くこと

○駐車場・交通機関などの交通基盤の整備の必要性

○日帰り型施設としては生活圏内、滞在型施設としては生活圏外での整備が有効

○日帰り・滞在ともに温泉・アミューズメント・商業施設・自然へのニーズが高いーリゾート志向

○滞在での利用の場合の方が日帰りでの利用の場合よりも施設に対して重要視する点が多い

複合スポーツ施設の効果的整備方法を構築するための第一段階として、後続の作業をスムーズに進めるためのコンセプトを設計するために必要となるコンセプトの設計を行った。

今回のアンケート調査によって、人々のスポーツ施設利用の実態、意識構造の検討を行い、複合スポーツ施設計画コンセプトの設計情報として取りまとめ、コンセプトの設計を行ったが、これは施設整備方法を構築するための第一段階にすぎない。

今後は、集計したデータをより詳細に分析すること。また、今回得られなかった情報の収集・分析、複合的施設利用行動のメカニズムの解明、導入施設、導入機能、計画規模、事業主体、事業形態などに関する検討を行うことが必要であると考えられる。

【参考文献】

1) 春名 攻：これからの都市づくりの計画論と都市・地域マネジメントの考え方、講演集, 1994.10

2) 石村貞夫 共著：多変量解析のはなし、東京図書, 1989.6